

<県研究主題>

心と体を一体としてとらえ、生徒一人ひとりが生涯にわたって自らの健康・体力づくりを考えて行動する資質や能力を培う学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 福地 真一教諭(横須賀地区)

<研究主題>

「仲間と連携した効果的な攻防」を展開するための指導計画の工夫・改善  
～視聴覚機器の有効活用による思考力・判断力の向上～

1 提案内容

(1) 生徒の実態と課題

生徒は豊かな自然の中で、健やかに生活しており、野外で体を動かす習慣がある。また、体育の授業に対しても前向きである。しかし、自主性が乏しく、学びを深めていく力が弱いと感じる。また、楽しいことは積極的に取り組むが、そうでないものへの関心が低いと感じる。

(2) 教材(ソフトテニス)のメリット

- ①個人種目ではあるが、ダブルスとして仲間を思いやる力を育むことができる。
- ②未経験者が多いため、同じスタートラインからの学習ができる。
- ③未経験者が多いため、関心を持つ生徒が多い。

(3) 重要視する3つの要素

- ①スモールステップ：易しい内容から難しい内容へ(難しい場合には戻る)
- ②視聴覚機器の有効活用：デジカメ、ビデオ、PCを運動観察のアイテムとして活用することで学習意欲の向上、課題発見、技能の向上や、運動観察の方法に繋げる。
- ③仲間との関わり：少人数のグループとすることで役割が明確化することや、コミュニケーションが増えることで学び合いの機会が増える。

(4) 成果と課題

①スモールステップ

- ・成果：「できない生徒」が生まれにくくなり、段階練習・反復練習が技術を向上させた。
- ・課題：練習項目が多いため、ゲーム的要素が少なくなった。

②視聴覚機器の有効活用

- ・成果：運動観察の方法を学びやくすなり、思考力・判断力の向上、課題の明確化に繋がった。
- ・課題：データ処理に費やす時間が必要になることや、デジカメの管理が大変なこと。

③仲間との関わり

- ・成果：意図的なグループ編成が効果的であり、仲間との連携プレーに繋がる。
- ・課題：話し合い・作戦の時間が不足した。欠席者が出た時の対応が必要である。

(5) まとめ

「環境が人を育てる」学びやすい学習環境を整えることが生徒の成長に大きく関わることを、研究を通して実感した。

## 2 協議内容

- ・1・2学年のソフトテニスにあてる時間はどうか。また、3年では選択か。  
1学年で7時間とし、2学年では実施しない。3学年では選択である。
- ・課題・発見カードの使い方はどのようになっているのか。  
自分の課題発見をする時間を設けたが、カードを使つての仲間へのアドバイスは少なかつた。
- ・自評ではゲーム的要素が少ないとあつたが、どのような工夫が必要か。  
練習の中で、ゲーム的要素を盛り込むことが必要であつたと考える。
- ・課題発見カードで何を見取っているか。  
教師側でポイントを設定し、見取ることとした。知識・理解と思考・判断を見取っている。
- ・今回の実践を通して、手ごたえを感じた点は何か。  
少人数（3人）グループにしたことにより、学び合いがしやすくなつたことである。

## 3 指導助言

- ・指導計画について、構造図の工夫が挙げられる。これは指導内容の見通しが立てられるのと同時に、自校の生徒の実態を考慮した学習内容や声かけを記す必要がある。この構造図により、単元のイメージがしっかりと持てるようになる。
- ・指導方法について、場の設定がなされていることが上げられる。用具や練習の場を工夫し、充実させていたが、いかに環境を整えるかがポイントである。「仲間と」動く、教え合う、考え合う活動がうまく取り入れられると授業が活発化する。
- ・学習評価として、思考・判断では、教師だけでなく、生徒たちにも思考・判断の評価規準が見えてくると、指導と評価の関係性が分かりやすくなると感じる。

## 提案2

提案者 早川 祥久教諭（湘南三浦地区）

### <研究主題>

自ら課題を明確にし、いきいきと取り組む相撲の授業

～ 楽しさや喜びを味わうことのできる授業づくりを目指して ～

## 1 提案内容

研究主題の主旨の中にある「生徒一人ひとりが課題をもって自ら運動を行い、その楽しさや喜びを味わうことができるような学習を進める」ために、次の2つのことを重点的に取り組んだ。

### (1) 課題を明確にすること

#### ① アドバイスゾーンの設置について

アドバイスゾーンをつくり試合後すぐに教え合い活動（言語活動）を、審判を含めた3人1組で行わせ、仲間からの客観的な意見を聞き、自分の課題を明確にし、次の試合に臨ませた。（対戦者2名＋審判＋仲間）

#### ② 課題と反省の記入について

アドバイスゾーンでの客観的な意見を加味しながら、「何ができていて、何ができていないのか」「どうすればできるようになるか」自分の課題を明確にし、その改善策を考えさせ、次の授業に生かせるように、授業のつながりを持たせた。

(2) 楽しさや喜びを味わうことのできる授業を目指す

武道の授業にありがちな「痛い」「怖い」といったマイナスのイメージの払拭が必要

①単元の早い段階からの試合について

相撲のメリットである「勝負の速さ」「勝敗の明確さ」「取り組みやすさ」「安全性」を生かし、武道の醍醐味である「勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わわせる」ことを目指した。

②2時間続きの授業について（メリット）

- ・時間内に余裕を持って慌てさせず、集中して活動することができる。
- ・練習から試合までじっくりと取り組むことができる。
- ・カード記入にしっかりと取り組み、自分の反省と課題を発見することができる。
- ・教師側も一人ひとりにしっかりアドバイスできる。

(3) 成果と課題

①アドバイズゾーンでの積極的な意見交換により、課題が明確になることで解決のために意欲的に行動できるようになった。

②アドバイズゾーンを設けたことで、話し合いが活発になり、課題と反省がより分析された内容になった。3人1組との相乗効果もあると考える。

③早い段階からの試合の体験ができたことで、マイナスイメージの払拭と運動量の確保がなされた。

④課題として、教え合い活動がさらに定着するためには、機器を活用し視覚からのアプローチも必要であると感じた。

2 協議内容

- ・2時間続きの授業をどう置いているのか。また、その他の1時間はどうしているのか。  
A週（2時間2コマ）B週（2時間1コマ）として、2週で6時間としている。
- ・学習カードの内容から、どのように思考・判断や知識・理解を見取っているか。  
記載内容から、思考・判断、知識・理解を見取っている。
- ・武道に取り組む上での安全性の確保、安全面で工夫している点は何か。  
マットの継ぎ目を埋める工夫や、ずれたらすぐに直させること。また受け身について柔道と同様に投げっぱなしにしないこと、頭を守ることの大切さ等を指導している。
- ・年間指導計画では年間10時間程度と目安を示されているが、少ないのではないか。  
地域の特色も含めて時期・時間を計画している。時間的には小学校時代の経験値もあるため、少なめに計画している。
- ・相撲が1番安全であるという考え方もある。どうしたら広げられると思うか。また、指導をする場合の難しさや、取り組みやすさはどういった点があるのか。  
私も経験がなかったが、指導するポイントを押さえていくとよいと思う。相撲は柔道と比べ、練習と試合がつながりやすいと私は感じている。
- ・アドバイズゾーンでの活動について、3人組にした意図とメリットは何か。  
グループの人数が多すぎると意見を述べない生徒も出てくるため3人組としている。  
時間が経過したらメンバーチェンジもあるので様々な相手からアドバイスがもらえる。  
後半、団体戦等でチームの中での話し合いも行っている。
- ・3人のうち一人は審判をやりながらアドバイスをしているが、別のグループからのアドバイスの方がよいのではないか？  
勝敗が明快なので、審判をやりながら苦労はしていなかったと思う。
- ・礼法についてはどのような点を注意されたのか。  
礼法は大切な部分である。試合に入るまでの作法はきちんと行っている。また、そこ

までの作法を実技テストでも見取っている。

### 3 指導助言

運動の二極化が大きな課題となっている現在。先生方はできるようになる喜びを味わわせ興味関心を高め、生涯にわたって運動に親しむことを目標に実践されている。

今回の実践では、課題を明確にすることを視点において、アドバイスゾーンやカードという言語活動を通して、解決や改善を図り、さらに論理的思考力を育んだり、主体性を引き出したりする実践であった。指導者側が目的を明確にし、アドバイスゾーンでは何をどのようにアドバイスするか、カードでは何を振り返るのか、そうした土台を生徒に理解させていた点大きい。また、いつどこで何を身に付けさせるのかを単元全体の中で指導者側がしっかり押さえていた。更にカードにはねらい・学習計画が示され、どの生徒に対してもわかりやすい。視覚的にもわかりやすいことも改善の一工夫である。

総則の中には、授業改善における教育課程編成の配慮事項がある。(相撲の文化が根付く地域の実態、系統性をもった小中連携関係等。)また、時間割の弾力的運用によって安全面と運動量の確保が可能となっていた。

最後に、提案者からの反省にもあったが、アドバイスゾーンで自分の動きを自分の目で見ること視聴覚機器が有効活用できないか。こうしたよりよい授業改善については、常に我々は視野を広げることが大切であろう。

### 班別研究協議

「学習指導要領に沿った年間指導計画、単元計画の作成」について8班に分かれ、2つの提案に対する感想や情報交換、協議を行い、班別に協議内容を発表した。

- ・男女共修のとらえ方であるが、小学校では当たり前に行われている。共修を実施していない学校では、校内で検討を行う必要がある。
- ・ICTの活用では、眠っているデジカメを提供していただけるよう保護者に依頼することもよいという意見が出た。
- ・言語活動の充実は、毎時間やる必要はないと考える。単元の中で計画的に行うこと。
- ・評価について、記録的なものなのか、形成されたものなのか、十分に吟味し、単元の中に位置づけて計画していく。
- ・単元の計画について、2人で教える場合など、指導の違いを生まないためにも、誰が見ても分かるという共通理解に基づいた計画を立てていきたい。

### まとめ

保健体育の授業が90時間から105時間に増えた点は、保健体育が重要視された部分である。総則にも、「保健体育科の時間はもとより…」という表記があり、体育が中心となって頑張してほしいというメッセージでもある。運動の二極化の差が開いている現状もあるが、この差を体育の授業が作っていないかを指導者側は考える必要がある。

改訂の趣旨の中に「豊かなスポーツライフ…」がある。20代から30代の女性のスポーツに関わる割合が少なく、60代からの関わりは多いという現状から、子どもたちにどのような力を付けたいのかを我々がもちながら実践することが大切であろう。

保健分野について、学校全体で取り組む形で作られている「生きる力」を育む中学校保健体育の手引き(文部科学省)。この中で健康について48時間を当てているのは保健体育だけであり、その学習の重要性を再確認したい。